

テーマ 難病患者と命の重さ

I このテーマの記事を選んだ理由を書いてください。

難病の筋萎縮性側索硬化症(ALS)の女性患者に頼まれ、殺害した2人の医師が逮捕された記事を見て、大きな衝撃を受けたからだ。この事件は単なる殺人事件ではなく、安楽死についての考え方や、生きることについて考えさせられる事件でそれらのことを考えるきっかけとなり、興味をもった。もし、自分が医者立場だったとしたら、判断するのが難しいからだ。

II 比べる記事のそれぞれの内容について分かったことを書いてください。

①について 殺害をするにあたって、百数十万円の報酬を医師らが受け取ったことや、女性患者がALSで安楽死を望む投稿をしていたことなどが確認されたことが分かった。また、過去に国内で安楽死に関する医師の殺人罪に対する判決事例を紹介している。

②について 同様に、SNSでの書き込みについて触れていたが、さらに、「積極的安楽死」に関する世界で合法化されている国についての紹介や、ALSの支援団体の訴えなども掲載されている。ALS患者の船後参院議員はネットでの反応をうけて難病患者らに「生まれた」と言いつくすなせるといった強い懸念を抱いているとコメントを発表した。

①と②を比べて分かったこと、自分で調べてみたいこと。
①は日本の過去の裁判の判決事例を挙げている。②は、安楽死を合法化している一部の国を挙げている。「積極的安楽死」が合法な国はなぜ合法なのか、日本はなぜ合法ではないのかを調べてみたいと思った。

III テーマについて、自分の考えや他の人と交流をして気付いたこと、調べたこと、提案などを書いてください。
殺害された女性患者は、病気が進行して手足が動かず、ALSで殺してほしいと依頼をしていた。私は、考えないといけないのは、殺害した医師が安楽死を容認する考えである、たとえだと思ふ。このように「積極的安楽死」は、海外のオランダやベルギーでは条件つまだが認められている。自身が被害者女性の立場だ、たまたま、自分が医師の立場だ、たまたま、日本ではなか、たまたま、様々なことを考えている。現在、ネット上などで今回の事件の医師の行為を賛同するような反応が多数でいる。その一方で、ALS患者の支援団体は難病患者らに「生まれた」という強い懸念を抱いているそうだ。ALS患者に生きる権利は当然あるべきで、「生まれた」と言いつくすなせるとは決してあてはまらないと思う。

私が必要だと思ふのは、「どんな人でも暮らしてほしい世の中にするには、ネット上で医師の行為に賛同しているような世の中は、難病患者らにとって暮らしてほしくない世の中だ」と思い、よく議論する問題だと思ふ。議論を進めていくためには、世の中は議論をしないといけない。正しい情報やそれぞれの立場の考えを話し、耳を傾けていくことで、今までの認識や固定観念を崩すことができると思う。今後国や色々な団体が議論する中で、この問題について知る人が増えていってもいい。でも知るだけを知りたいわけではない。だから次はそれを広められるように実際に行動していきたいと思う。これから、私たちは何かできるのかをクラスの人と話し合い、発見していきたい。

発行日

7/26

発行者(氏名)

田端
中学校
第3学年
生徒